

〔空穂物語藏開中〕中務の君御だいまいと聞ゆれば、いとねぶたくくるし。ち。い。さ。き。ば。ん。に。す。こ
 しわけて、いませとの給へば、ち。う。の。ば。む。に御わけ、べちにすこしわけて、まもの御あはせなども
 てまいれり、

〔類聚雜要抄一〕仁和寺殿競馬行幸御膳并御遊酒肴事保延三年九月廿三日、伊興守忠隆奉行

御膳 御臺二本 大盤二枚 中盤一枚

已上紫檀地菊螺鈿被鶴松蒔摺之在伏輪略

〔饅頭屋本節用集古器財〕小皿コザラ

〔俗耳鼓吹〕天明元年辛丑、小石川布施氏略の宅江、洲崎望陀欄の主祝阿彌を招請、獻立略

古渡南京青地中皿

銘々口取朝日ごぼう、二色

くるみせうゆ 古肥前小皿 銘々

〔料理通四編〕普茶卓子略式心得

一席中都以雅言を用ゆ、小皿を碟兒とよび、皿子といふ、

〔喰初口傳〕膳の中には、小き青石三、小重土器、又は小皿などに入居る、土器には輪あり、

〔明良洪範十一〕加藤左馬助嘉明ハ初メハ小身成シガ、後ニ會津四十萬石ヲ領シ、智勇仁徳ノ良將

也、故ニ土民ヨク伏スル也、慶長年中、南京ヨリ渡ル所ノ、成化年製ノ焼物ノ器ヲ多ク買入タリ、其

中十枚小皿アリ、是ハ世ニ云虫喰南京ト云物ニテ、藍色土目等得モ言レヌ出来也トテ、殊ニ秘藏

シケルニ、或時客饗應ノ節、近習ノ士、其小皿ヲ一ツ取落シ破ル、其士大ニ恐レ閉居セントスル由

ヲ聞キ、早々呼出シ、皿破ル逆何ゾ閉居スルニ及ンヤ、敢テ苦シカラズ、残りノ皿ヲ取寄セ悉ク打

碎キテ、此皿九枚残り有ル中ハ、一枚誰ガ龜相シテ破ツタリト、イツ迄モ汝ガ龜相ノ名ヲ殘ス事、

吾本意ニ非ズ、何程尊キ器物ナリトモ、家人ニハ替難シ、凡器物草木鳥類ナドヲ愛スル者ハ、其爲